災害ボランティアとは

被災した住民が1日でも早く元の生活に戻ることができるよう，
お手伝いをすることを目的とした活動です。

活動中の心構え

ボランティアは誰かに言われてやるのではない，自発的な活動です。

- 自分の安全を第一に!
- 被災した住民の心に寄り添いましょう。
- チームワークを守り，現地のルールに従って活動しましょう。

京都市災害ボランティアセンターについて

2004年（平成16年）に京都府を襲った台風23号による豪雨災害を契機に，きょうとNPOセンター，京都市社会福祉協議会及び京都市の三者により，政令指定都市では初の常設となる「京都市災害ボランティアセンター」を2006年（平成18年）に開設し，平常時から災害ボランティア活動に関する普及啓発，人材育成や調査研究等に取り組んでいます。

常設型のセンターという特徴を生かし，京都市内の5大学と連携した災害に備える活動

災害ボランティアセンターの設置・運営や，他の被災地における災害ボランティアリーダーなどを担う人材養成と確保をすすめるため，京都市社会福祉協議会と市内5大学が表明した「災害に係るパートナーシップ宣言（2016年）」に基づき，平時には大学生を対象とした研修やシミュレーション訓練を行う等，災害発生時に備える活動に取り組んでいます。

京都市災害ボランティアセンター

住　所　〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る 梅湊町83番地の1 「ひと・まち交流館 京都」内

お問い合わせ　TEL 075-354-8728　FAX 075-354-8727
E-mail office@ksvc.jp

平常時の開設時間　平日（月～金）9：00～17：00　ただし，毎月第3火曜日，祝日，年末年始は休業

設置主体
- 特定非営利活動法人きょうとNPOセンター（京都市市民活動総合センター）
- 社会福祉法人 京都市社会福祉協議会（京都市福祉ボランティアセンター）
- 京都市（文化市民局，保健福祉局）

http://ksvc.jp/

もし，災害が起きたら…

災害ボランティアセンターの役割と わたしたちにできること

平成30年7月豪雨災害　宮津市

災害ボランティアセンターは 誰のため？何のため？

主役はその地域に暮らしている「住民」のみなさんです。
「被災者中心」，「地元主体」，「協働」の三原則を基本に，住民による助け合いが災害により機能しない状態を，ボランティアの力を借り，住民が1日でも早く元の生活を送れるよう，復興・生活再建のお手伝いをするためのセンターです。

変幻自在の 災害ボランティアセンターを目指して

災害ボランティアセンターは，被災の状況に応じて，その機能を変えて運営します。災害時の支援活動を得意とするNPOや，専門的な知識を活かした活動を行う「専門職ボランティア」，その他関係機関とスクラムを組み，被災者のニーズに寄り添い同じ目線に立った活動を進めます。

平成30年7月豪雨災害　倉敷市真備町

被災者とボランティアを結び，
復興・生活再建のお手伝いをします。

京都市災害ボランティアセンター

大規模な災害が起こったら

京都市災害ボランティアセンターの役割

京都市災害ボランティアセンターは,市内での災害発生時には,現地における活動拠点として設置される「区災害ボランティアセンター」と連携し,被災状況の把握・発信,ボランティアの募集及び受入れのコーディネート,ボランティア支援活動に必要な資器材の貸出,他都市のボランティア関係団体等への協力要請等に取組み,ボランティア支援活動が被災者の多様なニーズに応じて効果的に展開されるよう,活動の総合調整を行います。

京都市以外で災害が発生した場合

情報収集 ＞ **先遣隊の派遣** ボランティア派遣を想定した調整・準備 ＞ **ボランティアの募集** ＞ **ボランティアの派遣・送り出し** 概ね1週間 ※生活再建のための被災家屋の片付けや支援ニーズが一定収束した段階で派遣を終了します。

区災害ボランティアセンターの役割

市内で災害が発生した場合，被災地に近い区域に，ボランティア支援活動の拠点となる「区災害ボランティアセンター」が設置されます。 ※被害状況等により設置されない場合もあります。
区災害対策本部や地域と連携をとりながら，被災者や避難所のニーズ（困りごと）の把握，ボランティアの受入れ及びコーディネート等を行います。

区災害ボランティアセンターの運営体制

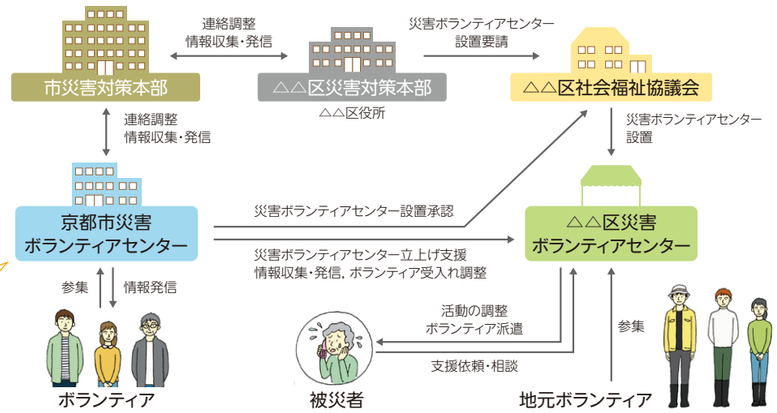
総　務　班	情報の受・発信や各班の調整，センター運営の事務を担います。
ボランティア登録班	市内外から参集するボランティアを登録します。
ニーズ受付・発掘班	被災者や避難所のニーズ（困りごと）を受付・収集します。
コーディネート班	ニーズとボランティアを調整，ボランティアを派遣します。

地域と災害ボランティアセンターが連携して

区災害ボランティアセンターの開設と支援活動の展開

区災害ボランティアセンターは，
区長の要請により
区社会福祉協議会が中心となり，
関係団体と協働して設置・運営されます。

広範囲の被災により，複数の区災害ボランティアセンターが設置された場合には，それぞれのセンターと連携し，市内全域のボランティア支援活動の総合調整を行います。



地域のみなさんにお願いしたいこと

- 地域の各団体との連絡調整
- 避難所の避難住民，在宅避難者などのニーズ（困りごと）の把握
- センターへの連絡，ボランティアの受入れ

ボランティアのみなさんにお願いしたいこと

- センターの運営スタッフとして参画
- ボランティアとして支援活動に参加

主なボランティア活動の内容

- センター運営の補助
- 家財道具の掃除
- 屋内外の片付けや清掃
- 見守り訪問
- 話し相手
- 避難所でのお手伝い
- 子どもの遊び相手 など

※ボランティアでは危険な作業や，営利活動・政治活動・宗教活動の手伝いなどは行いません。

活動までの流れ

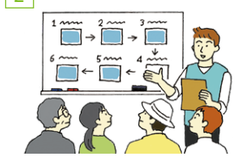
災害ボランティアセンターでは…

ニーズ受付
被災者からの依頼・相談を受付けます。現地調査を通じたニーズ把握等も行います。

1

ボランティア受付
ボランティア保険の加入等，ボランティア登録の手続きを行います。

2



オリエンテーション
被災者のプライバシー保護や活動上の留意事項等の説明を受けます。

3

マッチング
被災者からの依頼内容の説明を聞き，希望する活動先を選択します。

4

グルーピング
グループを作り，リーダーを決め，グループ内で依頼内容を確認します。

5

資器材の貸出
必要な資器材の貸出を受けます。

6

支援活動
被災者に寄り添う気持ちを忘れずに，支援活動をします。

7

活動報告
リーダーが活動状況や活動の継続の有無を報告します。

災害ボランティア活動に必要な装備を確認しよう!

泥出しなど，ハードな作業以外の
さまざまな活動の装備

会報誌「あるある55号」抜粋

豪雨・津波など
水害被災地での活動の装備

「水害ボランティア作業マニュアル」抜粋

イラスト出典：認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード

活動前に準備しておくもの

- □ ボランティア保険の加入（災害支援活動プラン）
- □ 活動・行動時用のカバン
- □ 帽子・雨具・長靴
- □ 携帯電話
- □ マスク
- □ タオルや雑巾
- □ 飲食料
- □ 保険証
- □ 熱中症対策グッズ　など

活動中は言葉にも気をつけましょう

例えば…
「被災地」ではなく「地名」，
「ガレキ」ではなく「家財」

実際に参加した人の声

困っている人を救えるのは，やはり人しかいないと感じました。
40代男性

片付けをお手伝いしていたお家のご夫婦が笑顔になられた時は嬉しかったです。
50代女性

短い時間のボランティア活動では，できることは限られています。本当の復興までにはかなりの時間がかかるということを身をもって知りました。
60代男性

ボランティアしてもらった人の声

協力してくれるボランティアさんは本当にありがたい存在です。寄せてくれる思いを力に変えて，1歩ずつ，前を向いていきたいです。